

林業相談

不成績苗畑の診断

問 最近、苗畑の成績が悪くなったのですが対策をたてて下さい。なお、近年は金肥に頼っています。(中富良野 A氏)

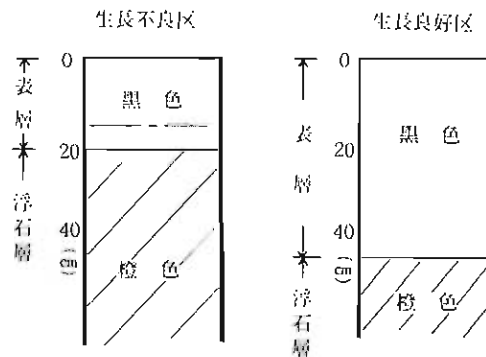
答 この畑のふつうの生長をしている個所と生長の悪い個所の土壌断面の比較を図でしてみましょう。まず、表層土の厚さが違う点に気がきます。表層が薄いと根の生活圏が狭く、また養分総量が少ないことを意味します。つぎに、浮石層の上層にあたる深さ15~20%の部分繊維密になっていることに気がきます。不良区の根が、この層の上で水平に張っているのも悪い影響を与えていると考えられます。また、下層が透水性のよい浮石層でも、土壌の孔隙が急激に変わるので水の下降が止まり、過湿気味になることも多いのです。しかし、数年のうちに成績が落ちた主な原因とはいいきれません。

つぎに、土壌の分析の結果を見ると、全窒素、易分解態窒素(熱水可溶態窒素)、有効リン酸、置換性カリについては良好区と不良区との差は認められませんが、不良区では酸性が強く置換性石灰が少ない点が気になりました。この畑ではここ数年、金肥のみに頼っているとのことですが、金肥の多くは酸性肥料であり、単独連用すれば土壌の酸度が強まるし、また堆肥を施さないと土壌の緩衝作用が弱まって、さらに酸性化しやすくなります。最近、肥料の発達や労働者不足などもあつて堆肥が軽視されていますが、堆肥の施用こそは土壌の物理性と養分の両方を非常に良好な状態にする秘訣です。

一応、以上のように診断しますが成績不良の原因は他にもあるかも知れません。対策としては、1. 従来おこなつてうまくいっていた方法で堆肥や肥料を施すること。

2. 徐々に酸度矯正をすること(いつべんにすると失敗します)。3. 表層の薄い個所は、とりあえず試験的に一部を深耕して緻密な層をこわし、浮石層と混ぜて苗木の成績を見とどける(今のところは客土までは行なわないで様子を見る)などをおすすめします。

(経営科 薄井五郎)



土 壌 断 面 図